

令和6年度 東京都立雪谷高等学校 全日制課程

第76回卒業式 学校長式辞

寒戻りの風と温かい日差しを繰り返しながらも、校内の草木の芽吹きに春の訪れを感じられる今日の佳き日に、東京都立雪谷高等学校全日制課程第76回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生、教職員にとりましてもこの上ない喜びであります。

本日は、

東京都議会議員 鈴木 章浩（すずき あきひろ）様

東京都議会議員 藤田 りょうこ（ふじた りょうこ）様

東京都議会議員 斎藤 りえ（さいとう りえ）様

本校学校運営連絡協議会委員の皆様や近隣の校長先生、

並びに同窓会、PTA役員の皆様、そして多くの保護者の皆様のご臨席を賜りましたこと、高い席からではございますが、教職員を代表して心より感謝申し上げます。

ただ今卒業証書を授与しました273名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。雪谷高校での3年間はいかがだったでしょうか。こうして皆さんの顔を1人1人拝見していると、誰もが笑顔と誇らしさに溢れており、雪高生として懸命に駆け抜けた様子が感じられます。私は、こうして立派に成長して巣立っていく皆さんを送り出す場に立ち会うことができ、大変うれしく思います。

また、皆さんの成長を心待ちにし、深い愛情で見守っていただいた保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。今日のお子様の姿をご覧になり、さぞかし感慨もひとしおかと拝察いたします。

さて皆さんは中学時代、コロナウィルスの影響で学校行事や部活動等を満足に経験することもできず、人と人との関わりすらも制限された中で、3年前入学してまいりました。その影響なのでしょう。1年次のころは、物静かであまり元気がなく、挨拶もまばらであったような印象があります。学校としましても、子供たちの健全育成のため、学校行事を通常の状態に一刻でも早く戻したいと考え、体育祭や文化祭、合唱祭など、感染対策を講じながら徐々に再開させてまいりました。その際、保護者の皆様には校内の消毒活動や観覧の制限等にご協力いただきましてありがとうございました。夏季合同合宿も小規模ながら再開させ、私も一緒に参加することができました。

様々な学校行事を経験していくにつれ、2年次では、自分でしっかりと考え主体的に行動できる生徒が増えてくるのと同時に、クラスや学年としてのまとまりが出てきました。体育祭や文化祭、部活動において中心的な役割を果たし、後輩の良き手本となってくれました。自分の進路実現のため、自主的に残って勉学に励むようになった生徒が増え始めたのもこの頃です。

3年次になって本格的な受験モード、授業における集中度も高まってきました。私も15年ぶりに数学の授業を持つことができ、教えることの喜びを久し振りに味わうことができました。私の授業が役に立ったかどうかは後で教えていただけたら幸いです。

そしてなんとといっても7月に行った母校応援は非常に感激いたしました。在校生はもとより、多くのOBや保護者、同窓会の方々が参集してスタンドを真っ赤に染め、その中で、PTAや同窓会の方々の大きな協力を得ながら、野球部、チアリーディング部、吹奏楽部が中心となって皆が一つになり、本気で母校を応援してくれて、大きな夢を見させてくれました。在校生の感想では、98%の生徒が実施してよかったと回答し、自分も何かを本気でやろうとか、応援される部活を目指そうといった感想も多く聞けました。この母校愛を育むとともに、人を応援し人から応援される学校を目指すということこそ雪谷高校が失ってはならない精神であると思います。

他にも私は、朝の正門での笑顔でかわす挨拶から始まって、授業の様子、放課後の部活動や学校行事、部活動の公式戦や発表会などなど、その一つ一つの場面における皆さんとの触れ合いが今でも鮮明に思い出されます。そして、皆さんのひたむきで一生懸命頑張る姿、成長していく様を見るのが何よりも楽しみでもありました。

この嬉しかったことも、悲しかったことも、辛かったことも、一生付き合える友との出会いも雪谷高校で経験したこれら全てのことが、今後生きていく上での大切な糧となったはずです。ですから、自信を持ってこれからの輝かしい未来を歩んでいってほしいと思います。

今後は、それぞれ選択した道で大いに活躍をしてほしいと思っています。そして何より、幸せな人生を歩んでほしいと心から願っています。

幸せな人生を歩めるかどうかは、自分の考え次第です。現状の失敗を不幸だと思うか、成長のチャンスだと思うかによって、その後の道は大きく変わります。苦しい時や壁にぶつかった時ほど、物事をポジティブに捉えて挑戦することが必要です。

それと同時に、これに失敗したらもうだめだと思ふこともあるかもしれませんが、今見えている世界が全てではありません。こんな選択肢もあったのだと後になって気づくことも多々あります。かく言う私も、学生時代には教職の道など全く考えていませんでしたが、こうやってキャリアを積み、今佳境を迎えようとしています。このことに何の未練や後悔もなく、むしろ大きな充実感と感謝の気持ちで一杯です。おそらく必然だったのでしょう。ただそう考えられたのは、目の前のことや自分に一生懸命向き合っ、楽しみながら行動してきたからだとは思っています。

それともう一つ、周りの人々への感謝の気持ちも忘れてはなりません。どんな時にも、信じて支えてくれた人々がいたから、乗り越えられたことがたくさんあるはず。幸せは、周りの人との関わりの中で実感できるものです。自分のやることが人から感謝されたり、世の中の役に立っていると感じられたりすることで味わえるのではないのでしょうか。

でも一番大切なことは、まず自分が幸せになることです。今までの頑張りに誇りを持つことです。たとえうまくいかなかったとしても、その時その時を全力でやり続けたからこそ、今があるのです。自分に感謝して、自分を誇りに思って、心を幸せいっぱいにしてこれからの輝かしい未来を歩んでいってください。皆さんそれぞれが自分らしく、さらに大きく成長することを願っています。そして、もし仮に道に迷うようなことがあった場合、いつでも母校に立ち帰ってきてください。ここには、青春時代を懸命に駆け抜けたあなた方自身がいます。それをわかってくれる仲間がいます。そして雪谷をこよなく愛してくれる先輩たちがいます。それこそが『チーム雪谷』の本当の力なのです。

結びに、保護者の皆様には、本校の教育活動にご協力いただきまして誠にありがとうございました。様々なご不安やご負担をおかけしたかと思いますが、本日、成長著しいお子様を保護者の皆様と一緒に送り出せましたこと、心より感謝申し上げます。卒業生の皆さんも、今日という日を無事迎えられたことを、保護者の方々にしっかりと自分の言葉でお礼を言ってください。

それでは卒業生の皆さん、皆さんの洋々たる前途が健やかで幸多きことを祈り、式辞といたします。

令和7年3月8日

東京都立雪谷高等学校長 豊岡 耕一郎